

北上田 毅

(沖縄平和市民連絡会・ヘリ基地反対協抗議船船長)

第1. 盛り上がる沖縄県民の闘い

1. 翁長知事の誕生、衆議院全選挙区での勝利
2. シュワブ基地・ゲート前での徹夜の座り込み行動（資材搬入の阻止）
3. カヌー隊と船団による海上での阻止行動（外洋のうねりが入り込む冬の大浦湾）

第2. 防衛局による工事の強行

1. 大浦湾全域（工事施工区域・臨時制限水域）に進入防止のためのオイルフェンス張り出し

- (1) オイルフェンスの張り出し 1月15日～
- (2) 多数のコンクリートブロック（20～45トン/個）の投入（アンカー） 1月27日～
- (3) 沖縄県漁業調整規則に基づく岩礁破碎許可の手続きをさせる。（県は防衛局に文書照会）
違反行為に対して、知事は中止命令・現状回復命令を出すことができる。

2. シュワブ基地内の旧米軍兵舎の解体工事（アスベスト問題、コンクリート殻）

3. 今後進められる工事について

(1) 「仮設棧橋」（大型突堤）——実質的な埋立の開始

- ・延長：300m、幅17～25m、必要とされる石材量：20,300 m³（大型ダンプ5000台以上）
工法：①陸域部から割栗石の投入均し、②根固め用袋材、港湾築堤マットの設置
- ・防衛大臣は、「海底ボーリング調査のためのもの。調査が終われば撤去する」と説明
海底ボーリング調査にこのような巨大突堤は必要ない。投入した栗石の撤去は不可能
- ・公有水面埋立法にもとづく「設計概要の変更申請」が必要。それまでは着工させない
- ・県の対応の変化（防衛局への文書照会）

(2) 海底ボーリング調査

- ・「シュワブ（H25）地質調査（その2）」 深い箇所9地点（平均-9m）が未施工
- ・「シュワブ（H26）地質調査」 3地点（平均水深-33m）

(3) あいつぐ本体工事契約

中仕切護岸工事（1工区）、同（2工区）、陸上仮設ヤード整備工事（1工区）、同（2工区）
ケーソン新設工事（1工区） 141億円

第3. 海上保安庁による過剰警備 ——けが人が続出

- ・海保の暴力で負傷したカヌー隊メンバー、船長らが刑事告訴（4名）。海保の「馬乗り事件」。

第4. 県の「第三者委員会」について ——「承認の取り消し・撤回」に向けて

- ・翁長知事、検証期間中の作業中止を要請 ⇒ 政府は無視

<追記：高江・ヘリパッド建設反対運動の現状>

- *N4地区ヘリパッドの米軍への移管
- *N1地区着工に向け、進入口での座り込み排除に向けた動き（米軍専用区域への変更）
- *G地区のヘリパッド工事も業者が決定